

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 3月 19日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	小田 勇一	経営	H0601002
	②	熊谷 純子	福祉	H1401058
	③	牧野 和子	福祉	H0601029
	④	田中 恵理香	経営	H1901039
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	トレジャーキッズあやせ保育園			
事業所連絡先	〒	120-0005		
	所在地	東京都足立区綾瀬1-29-9		
	TEL	03-6662-6868		
事業所代表者氏名	笹谷 晴美			
契約日	2019年 11月 15日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 11月 27日			
利用者調査結果報告日	2020年 1月 13日			
自己評価の調査票配付日	2019年 11月 27日			
自己評価結果報告日	2020年 1月 13日			
訪問調査日	2020年 1月 20日			
評価合議日	2020年 1月 20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>・事前説明にあたっては、令和元年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。</p> <p>・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。</p> <p>・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、当日は、事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。</p> <p>・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。</p>			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 3月 18日

事業者代表者氏名

若濱 久

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【保育理念】 子ども一人ひとりの発達を保障し豊かな成長を支えます 子どもの情緒が安定し いきいきと自らを成長させることができる環境を目指します</p> <p>【大切にしていること】 園の自主性を重視した運営 一人ひとりにていねいな保育 子どもたちの自主性を育む体験</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>会社の理念に沿って、子どもの最善の利益のために自己研鑽に励む職員 子どもの気持ち・保護者の気持ち・仲間の気持ちに寄り添える職員</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>社会人としての常識を身に付け、保育内容だけにとらわれず、人権や安全衛生、メンタルケア等幅広い知識得られるよう、情報収集をし自己研鑽に励む 子どもの成長に最も大切な時期に携わる責任の重さを感じ、職務に全うする</p>

調査対象

2019年11月1日現在の施設の利用者(保護者) 24世帯(利用者総数 27名)を対象とした。

調査方法

アンケート(自記式)。施設にて担任が保護者に手渡しする形で調査票を配付。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱による回収。

利用者総数

27

利用者家族総数(世帯)

24

共通評価項目による調査対象者数

24

共通評価項目による調査の有効回答者数

20

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

83.3

利用者調査全体のコメント

・総合的な満足度としては、「大変満足」が 40%、「満足」が 60%となっており、満足と答えた人が 100%となっている。

●設問の中で「はい」の比率が高かった上位は、次の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか

(各々 100%、20人)

問3. 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか

問7. 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか

(各々 95%、19人)

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	20	0	0	0
仕事をしている為ゆっくり子どもに食事の仕方等教えてあげられていないので大変助かっています、その個人に合わせてやってくれていると思う、保育園で学んで逆に教えてくれることが多々ある、などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	20	0	0	0
他の子とのふれあいや様々な遊びをすることによって園での生活を楽しんでいると感じることができています。朝夕はブロックばかりしていると思いますが最近では違うこともしているので良くなってきていると感じる。昼はいろいろ活動しているのでもいいと思う、などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	19	0	0	1
特に意見なし。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	17	3	0	0
新設園のせいか行事は少ないと思います。これからの期待しております、などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	11	3	0	6
降園時間の数時間前に連絡している状況でも快諾して頂いています。助かっております、いつも急なお願いでも柔軟に対応して頂いています。本当に助かっています、などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	16	4	0	0
お迎え時の職員体制に関する意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	19	1	0	0
開始の時間や日程の設定に関する意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	17	3	0	0
帰りの時間や連絡帳などで相談するとしっかり答えてくださるのでとてもありがたく思います、などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	0	0	0
特に意見なし。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	17	3	0	0
職員の態度や挨拶などに関する意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	18	2	0	0
特に意見なし。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	14	2	0	4
子ども同士のトラブルへの配慮に関する意見などがあった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	20	0	0	0
子どもが先生に話しかけるといつも手を止めて話を聞いてくれます、子どもの成長に合わせて対応してくれていて無理をさせていないと思う、という意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	16	0	0	4
特に意見なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	18	1	0	1
毎日帰りの時間に1日の出来事を話して下さるのでとてもわかりやすいです、部屋の前にあるレポートで日ごろの様子は分かる、などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	14	2	0	4
不満・要望を伝えたことがないのでどちらともいえない、そもそも不満がない、という意見があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	5	9	0	6
特に困ったことが今までに無かったので何とも言えません、などの意見があった。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	保育の考え、理念などが掲示されており、職員の共有、保護者の理解を促している 法人の保育の考え、保育理念などは事務室や玄関ホールに掲示され、保護者や職員が目にすることができるようになっている。新任の社員研修等で保育理念や方針などを理解し共有しており、昼礼時には職員行動規範を唱和し職員会議の際には理念等を声を出して読み上げ、意識づけを促している。法人のパンフレット及び入園のしおりにも法人の保育の考え、保育理念、大切にしていることを明示し、入園の際に保護者に説明している。園行事への参加を依頼する際には、園の理念や方針などをさらに理解してもらえようようにしたいとの希望もあり、期待したい。	
	職員との情報共有を図り、適切な運営ができるよう配慮し、職員の質向上に努めている 法人の園長会にて報告された事項や協議した内容などは職員会議で伝え、保育に取り組む内容などを周知し日常活動に活かしている。若い職員が多いこともあり、できるだけ7時30分から園長が事務室にいるように努め、保護者との対応や保育活動などに関して適切な助言・支援ができるよう配慮している。本社の目標に対して園の対応を半期ごとにターゲットプランに取りまとめ、個人の目標を設定して取り組んでいる。園長は職員と個人面談を行い、個別の目標設定から反省・評価考課までの一連の流れとして支援にあたり、職員のスキルアップに努めている。	
	園の運営に関する会議体系を定め伝達・共有に努め、保護者の理解と協力につなげている 職員会議、昼礼やクラス会議を通して様々な園運営に関する情報が伝達・共有され、保育の方向性や進め方に沿って職員の配置などが決定されて活動が展開されている。備品の購入や職員採用などの対応は職務権限基準に基づき、定められた手順に沿って稟議を行い、決裁を得る形態となっている。本社での決定事項などは園長会で報告され、職員会議を通じて各職員に周知されている。保護者へは園内に掲示するなどの対応を取っており、おたよりとして書面配付することもあり、適宜伝えることで理解の促進と保育への協力につなげている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

<p style="text-align: center;">カテゴリ2の講評</p> <p>保護者からの保育に関する意見などを活かして取り組んだり、職員の意見を反映している 保護者が参加する行事後にはアンケート調査を行い、ご意見や要望などを把握し、次回の行事内容の検討や開催時期の設定などに活かせるよう職員間で共有し改善点などを話し合うようにしている。台風などの災害に関する保護者の意識調査を行い、結果を取りまとめ保健だよりを通じて伝えることで災害に対する意識強化につなげている。また、自宅での食事の様子や食事への要望なども把握し、職員間で共有して園の食育への取り組みに活かしている。保護者の提案を受けて敬老の集いを行ったり、職員からの公開リハーサルの意見を活かし開催している。</p> <p>地域の情報などを把握し子育て家庭支援を行い、選んでもらえる保育園を目指している 民生委員が参加する運営委員会を開催して地域性や保育園に求められている対応などの情報を把握したり、保幼小の連携協議会に参加し地域の子育てに関するニーズなどの情報を共有して子育て支援活動の取り組みに活かしている。町会にも加入し、回覧板を通して地域の動きや町の情報などを集め、本社のSDGsの基本姿勢に沿って対応を進めようとしている。開園1年目の施設ではあるが、地域の子育て家庭支援につながる「ふれあいひろば」を行い、園庭開放や子育て相談等に取り組む、保育園として地域で選んでもらえるようにしたいと考えている。</p> <p>中長期計画に沿って事業計画を策定し、目標指標や項目を明示して取り組みを進めている 令和4年度までの中長期計画を取りまとめ、保育サービス、保護者対応、地域との交流・社会貢献などの取り組みを定め、保育内容、環境設備(施設の充実)、保健・安全計画、給食・食育計画などが明示されている。事業計画は中長期計画に沿って年度毎に策定され、目標とする指標や項目などが明確に示されており、年度末の総括を受けて次年度への展開に具体的に引き継がれ、1年間の取り組みを受けて保育や行事、活動への反省・評価が活かされ、保育の新たな展開や取り組みが実践へとつながっていくことが期待できる。</p>	
<p>カテゴリ3</p>	
<p>3 経営における社会的責任</p>	
<p>サブカテゴリ1(3-1)</p>	
<p>社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる</p>	<p>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2</p>
<p>評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる</p>	
<p>評価</p>	<p>標準項目</p>
<p><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</p>	<p>1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる</p>
<p><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</p>	<p>2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している</p>
<p>評点(〇〇)</p>	
<p>サブカテゴリ2(3-2)</p>	
<p>利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている</p>	<p>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4</p>
<p>評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている</p>	
<p>評価</p>	<p>標準項目</p>
<p><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</p>	<p>1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている</p>
<p><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</p>	<p>2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある</p>
<p>評点(〇〇)</p>	
<p>評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている</p>	
<p>評価</p>	<p>標準項目</p>
<p><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</p>	<p>1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している</p>
<p><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</p>	<p>2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている</p>
<p>評点(〇〇)</p>	

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

人権擁護や虐待など倫理に対する意識を高め、保育の改善に活かしている
 人権擁護・虐待防止については園内研修のほか、区の研修に職員が参加している。園では、全国保育士会の人権擁護チェックシートや虐待チェックリストを活用し、それぞれ年に1~2回、定められた項目を確認している。この振り返りにより、職員は人権擁護や虐待防止に対する理解・意識を高め、子どもに対する接し方を改善しようとしており、保育の質の向上につながることを期待される。また、子どもに対する人権侵害や虐待を発見した場合、本社や児童相談所などとの連携の手順が確立されており、必要な時には適切な対応ができると考えられる。

苦情処理の対応が整備されており、苦情対応に前向きに取り組もうとしている
 利用者等からの意見・要望・苦情については、意見箱を設置して広く情報を集め、園の玄関に苦情の相談先等について掲示している。集まった意見・要望は、職員間で情報共有して方針を検討し、苦情受付窓口に来た事案についても記録書を残すようになっている。苦情対応は園長が中心になって行うが、必ずしも相手が言うことを受け入れるだけでなく、その都度適切な対応を検討している。利用者等の意見・苦情を有用な情報として受け入れ、積極的に保育に活かそうとしており、今後もさまざまな要望に対応しながら、よりよい保育につなげていこうとしている。

イベントの開催などを通じて、園と地域の人たちが交流する機会を積極的に作っている
 月1回、園を地域に開放する「ふれあいひろば」を開催し、地域の人に園の活動を体験してもらうほか、保育主任と看護師が参加して園の専門性を活かした育児相談等を行い、子育て支援で地域への貢献を図っている。一方、ハロウィン時には園児が地域に出て楽しんだり、また「科学ボランティア」が園に来て園児と活動したりしており、地域とのつながりが園児にとってもよい刺激になり活動を広げる機会になっている。今後実習生2名の受け入れを予定しているが、園と地域の関わりが深まり、地域の人にとっても園にとってもよい成果ができれば望ましい。

4 カテゴリー4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>事故・感染症・災害等に関するマニュアルがあり、対応が利用者とも共有されている</p> <p>感染症予防マニュアル、避難訓練計画書、事業継続計画(BCP)等が準備され、災害時の職員の対応が定められ、職員に対する研修が実施されている。保護者に対しても、掲示板やメールで感染症の流行の状況や災害時の登園の目安について情報発信するなど、園の保健・安全に関する対応が周知されている。関係者全員で災害に対する理解を深め、備えをしていく姿勢が見られる。また、園では非常食の喫食体験の実施を検討しているが、こうした具体的な活動は災害について身近に考えるきっかけになり、防災に対する意識を高めるうえで有用と思われる。</p> <p>ヒヤリハットの報告書を作成し、今後の事故抑制・対応を検討する参考にしている</p> <p>ヒヤリハットの報告書のフォームがあり、報告書を園内で共有して事故抑制に活かしている。フォームは発生状況の報告に加え、なぜ起こったのかや今後の対応をどうするかについても記入するようになっており、再発防止を重視する姿勢が窺える。また、職員会議でもヒヤリハットの振り返りを行っており、園全体で事故の防止に取り組んでいる。開園1年目ということもあり、まだ多くの事例は報告されていないようであるが、ヒヤリハットの報告や振り返りがより円滑にできる方法を検討するなどして、さらに対策を進めることが期待される。</p> <p>情報管理に関する規則やマニュアルが整備されており、情報が適切に管理されている</p> <p>個人情報保護基本マニュアルに基づいて、個人情報の管理を行っているほか、園内の各種情報について管理のしくみが整備されている。児童票など必要な情報は、職員がだれでも閲覧できるようにする一方で、職種に応じてアクセス権限を設定して情報を管理しており、早朝や夜間の書庫の施錠についてもルールを定めている。データを保存したSDカードは園外に持ち出さないなどの規則もあり、電子データの管理も厳重に行っている。職員には情報管理に関する研修を実施し、保護者には個人情報の取り扱いについて説明し、関係者の間で理解の共有を図っている。</p>		

カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

法人と保育園が協力して、様々な方法でよい人材を確保するための努力をしている

よい人材を確保するため、職員の募集にあたっては法人と保育園が協力し、様々な努力を行っている。法人本社が主導して策定した人材計画に基づき、園長が中心となって就職フェアに出かけたり、職員が卒業した大学を訪問して保育士課程の学生に呼びかけを行ったりしている。また、職員に知り合いの保育士を紹介してもらい就業が実現した場合は謝金を支給する保育士紹介キャンペーンの制度もあり、この制度により採用された職員もいる。そのほか、保育園の理念や研修制度、福利厚生等を説明したチラシを配布して法人の保育活動への理解を促している。

キャリアパスに基づいた個別の人材育成計画を策定し、職員の能力向上に取り組んでいる

法人で、職員の職務責任や必要なスキルを定めたキャリアパス体系と人材計画が整備されており、これに基づいて保育園の目標を踏まえた個人別のターゲットプラン、人事考課シート、個別の研修計画シートが準備されており、各職員の育成に取り組んでいる。定期的に職員面談を持ち、ターゲットプランの進捗を確認したうえ、目標設定や研修内容の見直しを行っている。今年度は開設初年度であったため、人材育成はOJTが中心であったが、今後よりきめ細やかな人材育成を行えるよう、チューター制度やメンター制度の導入を計画している。

各種研修を実施し、研修報告を行って保育園内で研修の成果を共有している

園内研修も含め、保育・保健衛生等、様々な研修の機会が全職員に提供されている。研修レポートは職員が閲覧できる場所に保管しているほか、研修の発表会を実施するなどして、研修成果を園全体で共有できるようにしている。こうした研修は職員のモチベーションの向上にもつながっている。一方で、研修の成果が子どもや保護者の対応にどのように活かされたかがまだ見えにくい面もあり、今後、研修の成果を実際の保育の場面でどのように具体的に活用していくか、より活用するにはどうすればよいか、などを検討するとさらに効果的と思われる。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

○リスクマネジメントへの意識向上を目指し、戸外活動や保育室内での危険予知訓練、午睡時の危険性、感染症予防、感染症拡大予防について職員の共通理解を深める。

* 今年度、新規開園ということからも、大切な命を預かるうえで重大なリスクマネジメントについて職員指導の徹底を行う

<取り組み>

- * 日常の危険予知訓練を通して事故防止をしたり、ヒヤリハットの見直しをして職員間で情報共有と改善点について話していく
- ・感染症についてはこれから流行するであろう感染症について知る研修を行い、予防の仕方や嘔吐処理の仕方等、発生時の対応についても共通理解を深める
- ・危険予知訓練研修をもとにヒヤリハットをあげることで事故を未然に防いでいくという意識付けにつなげる
- ・多くの職員が事故ゼロを自己目標に保育をするように努め、大きなけがの発生を防ぐことに活かす
- ・リスクとどう向き合うか、遊びの中では沢山の学びがある中で危ないから経験させられないのではなく、どのようにしたら危険を回避できるかを考え、保育の工夫をする

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input checked="" type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input checked="" type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保育園設立が平成31年4月1日のため、前年度の実績がなく評価対象外となることから、今年度に設定した目標と取り組み内容を記載した。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

○保育の質の向上を目指し、子どもが主体的に遊べる環境づくりと区の掲げる保育の質ガイドラインに沿って個々の取り組みの工夫をしていく。

* 区の保育の質ガイドラインの内容に沿って保育に取り組む

<取り組み>

* 区のガイドラインを読み合わせたり、虐待・人権についての研修またチェックシートの実施で共通理解を深める。

・ガイドラインや研修の中で共通理解を深め、一人ひとりの気持ちに寄り添った保育の実現につなげる

・ガイドラインは継続して活用していく

・保育の質の向上は職員のスキルアップや職員間の関係性が大きく関わるため、職員間のコミュニケーションを深める機会を多く持てるようにする

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input checked="" type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input checked="" type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保育園設立が平成31年4月1日のため、前年度の実績がなく評価対象外となることから、今年度に設定した目標と取り組み内容を記載した。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページや園のしおりで基本情報や特徴など詳細な情報を提供する工夫をしている</p> <p>ホームページから基本情報の他、概要、系列園共通の取り組み、保育園の一日、給食カレンダー、入園時のよくある質問など情報提供されている。大切にしていることとして「園の自主性を重視した運営」「一人ひとりていねいな保育」「子どもたちの自主性を育む体験」など特色が紹介され必要な情報が得られるようになっている。また、園のHPでは園長や職員のメッセージ、園概要、保育目標の他「にこにこブログ」では季節ごとの保育園の行事の取り組みや、日常の子どもたちの生活や遊びの様子を伝えている。実際にブログを見て園見学につながっている。</p> <p>行政のホームページや庁舎内に保育園コンシェルジュによるパネルでの園紹介をしている</p> <p>行政のホームページには園一覧の情報が掲載され、0歳児保育や延長保育の有無、入園申し込みの流れ、募集人数など情報を得られるようになっている。区の窓口や子育てサロンには保育園コンシェルジュが出張し保育施設の案内や相談に乗るなどきめ細かく対応しており、園ではコンシェルジュとの連携で園の情報を伝え、夏にはパネルによる園紹介で利用希望者に園情報を伝えている。毎月の園長会や年に2回の地区別園長会などで情報交換を行い地域の待機児童について把握し、園のできる子育て支援について何に力を入れていくか検討の機会としている。</p> <p>園見学は利用希望者の予定に合わせての個別対応している</p> <p>利用希望者の園見学は電話で受付し、個別に日程を調整している。一日2～3組を目途に園長または主任が対応し、園舎内の見学と園のしおりを使って説明を行っている。日々の保育を大事にした行事の取り組みの考えや、会社の方針「一人ひとりていねいな保育」や、子どもが主体的に活動することを大事にしていることを伝えている。具体的に土曜日保育の利用、延長保育の利用、発熱時の対応など見学者からの質問や相談に丁寧に応じている。園は「明日も保育園にいきたい」と子どもが思える笑顔の保育園作りを目指している。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園時に個人面談を実施し園の基本的なルールや重要事項を説明し、同意を得ている</p> <p>事前に入園面接において使用する入園のしおりや児童票、入園前健診のお知らせ、入園説明会・面談のお知らせなどの書類を送付し、面接日に提出が必要な物、後日提出するもの、家庭での保管など、保護者に分かりやすく案内している。園長が「園のしおり」「重要事項説明書」に沿って園の基本ルールを説明し、署名捺印をして同意を得ている。新入園児個人面談シートにて入園までの状況や既往歴、「おこさまとのふれあいで大切にしていること」「保育園に対して求めること」など、保護者の意向や要望を受け止めて記載している。</p> <p>面談で確認された子ども一人ひとりの情報はファイルし、全体会議で共有している</p> <p>面談時に保護者が提出する児童票や入園予定児健診結果表、緊急連絡カード、アレルギー調査書、個人情報保護の方針及び取り扱いに関する同意書など個人別にファイルしている。面談シートをもとに家庭での成育歴や基本的な生活習慣、既往歴、アレルギーの有無など、クラスミーティングで非常勤職員も入り子ども一人ひとりの情報を共有し把握している。面談時に確認された保護者の意向や要望は、全体会議の中で職員間で共有し保育に活かせるようにしている。さらに離乳食や食物アレルギーについては、栄養士が詳細な聞き取りを行い実施に向けている。</p> <p>保護者の意向を確認し慣れ保育を実施し、無理なく園生活に慣れるようにしている。</p> <p>入園当初の子ども・保護者の不安・軽減に向け、面接時に保護者と相談し概ね一週間程度の慣れ保育を設定し、徐々に保育時間を延ばし子どもに無理のないように調整している。受け入れ時に体調面での聞き取りをていねいに行い、安定した園生活が送れるようにしている。家庭との連絡を密にし、子ども一人ひとりのこだわりや家庭での生活を受けとめ個別対応し、情緒の安定を図り安心できるようにしている。また、転居など退園時には思い出の製作帳や職員の寄せ書きのメッセージを送り、継続した支援につながるよう対応している。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>子どもの個別な成長発達の様子は、定期的に「発達経過記録」に記録し把握している</p> <p>面談で確認された子どもの発育・発達、家庭での生活状況や成育歴、健康面、保育園に対して求めることなど、「新入園児面談シート」や児童票に記録し把握している。日々の家庭との連絡帳のやりとりや送迎時の保護者とのコミュニケーション、個人面談、保育参観などで子どもの様子を家庭と園で共有を図っている。日々の子どもの姿や活動の様子を保育日誌に記載し、定期的に「発達経過記録」に記録し把握している。さらに子ども一人ひとりの変化が記録から読み取れるよう、「エピソード日誌」を今後の課題とし園長は取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>子どもの状況に合わせて計画を作成し、保育の振り返りを行い次月につなげている</p> <p>「保育の内容に関する全体的な計画」を踏まえて乳児(0歳児)は三つの視点、満1歳以上は5領域で区分し、養護と教育の観点でねらいを持ち、年間指導計画・月案・週案の他、2歳児までは個別指導計画を作成している。環境構成と配慮点、食育や異年齢活動など活動内容や保育士の援助、配慮などの評価の観点を明確にし、毎月クラス毎に振り返りを行うと共に期毎に計画が子どもの姿に合ったものになっているか確認を行っている。保育内容に関する全体的な計画やクラスだよりを掲示し、保護者にクラスの保育の取り組みを伝えている。</p> <p>子どもや保護者の状況に変化があった場合、申し送り表で情報を共有している</p> <p>子ども一人ひとりに関する必要な情報は、連絡帳、保育日誌に個別の記録欄を設け記載している。0歳～2歳児は個別指導計画に成長の様子が分かるように記録すると共に、全体では児童票に発達経過記録を記載し、一人ひとりの成長・発達の経過が分かるようにしている。保育に携わる職員が子どもの情報を共有できるように非常勤職員を含め、クラスミーティングを行い共有を図っている。子どもや保護者の状況に変化があった場合には情報や引継ぎ事項を「申し送り表」に記入し、職員間で共有するよう周知徹底を行っている。</p>		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>保護者の同意を得て、子どものプライバシー保護や羞恥心への配慮に努めている</p> <p>個人情報の取り扱いについて「重要事項説明書」に明示し、入園時に内容を確認し保護者の同意を得ている。プライバシー保護について区のガイドラインに沿って対応し、HPや会社のパンフレット等への写真掲載に関する同意も確認している。子どもの羞恥心に関しては、乳児のおむつ交換は必ずトイレの所定の場所で行うことを徹底している。水遊び時の着替えなど必要に応じて衝立を設置し、男女別々に対応しており、全裸にならないように上を脱いだら上を着るなど着脱方法が身につくよう保育士が関わり、年齢発達に合った対応を心がけている。</p> <p>子ども一人ひとりの気持ちや思いに寄り添い、尊重した関わりを心がけている</p> <p>日常の保育の中で子ども一人ひとりの思いに気づき、気持ちを尊重した関わりを大切にすることが職員間で確認されている。入園間もない子どもが母親が迎えに来るから散歩に行かないと主張したことがあり、その子の思いに寄り添い保育士と留守番をしたエピソードを訪問時に伺った。子どもが安定した園生活を送れるようになると散歩にも出かけることができ、園では子ども一人ひとりにとって最善の関わりができるように努めている。活動に参加したくない時には、みんなと一緒にやることを課題とせず、子どもの思いを受け止めた対応をしている。</p> <p>それぞれの家庭状況や背景を受け止め、支援に向け、研修を通して意識共有に努めている</p> <p>子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した関わりができるように、日常的に異文化を理解したり、保護者の話をよく聞き、意向や家庭状況を理解し受け止めている。子どもの生活を24時間のサイクルで見守り、家庭的な保育を目指している。虐待防止、人権擁護についての園内研修や外部研修を実施し、日ごろから子どもへの関わりや保育士の言葉かけなどを振り返り、意識した保育が行われている。個別配慮が必要な場合、具体的な対応を共有し、虐待の疑いが生じた場合には本社の「虐待防止対応マニュアル」に基づき関係機関と連携を図る仕組みがある。</p>			

サブカテゴリ-6				
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(000)
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(00)
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-6の講評				
<p>園内マニュアルを活用し、業務の標準化を進め、手順などを明確にしている</p> <p>業務内容等サービス提供について園内マニュアルを作成し、誰でも同じ手順で活動できるよう工夫している。マニュアルは職員が閲覧しやすいところに保管し、業務の振り返りに役立っている。延長保育の記録は保育日誌と併せて読むことができる等、ファイル管理についても工夫がなされている。散歩チェック表において19の項目が記載され、散歩の注意事項を確認することとなっている。また、散歩においてはけがや事故発生時の連絡方法について職員に周知している。分かりにくい内容についてはチェックシートを導入し、基本事項や手順を明確化している。</p> <p>職員全員でマニュアルの見直しを行い、業務標準レベルの向上に努めている</p> <p>マニュアルは年度末全職員で見直しを行い、手順のなかで合理的でないものを改訂する等、業務標準レベルの向上を目指している。延長保育マニュアルを用い、一人の職員が最後まで標準的な業務が遂行できるよう工夫がなされている。早番と遅番が連携して業務を行うことができるよう手順書を確認している。遊具の利用について遊具の写真と対象年齢を合わせて確認する等、チェックシートの見直しを実施、毎週金曜日に安全点検を行い事故防止に取り組んでいる。また、職員の意見に加え子どもの様子や保護者の意見・要望をマニュアル見直しに取り入れている。</p>				

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達や24時間の生活状況を把握し保育環境の工夫を課題にしている</p> <p>入園までの子どもの様子は児童票や新入園児面談シートで把握し、入園後は送迎時の保護者との会話や連絡帳で意向や子ども一人ひとりの家庭での状況などを捉え、24時間の生活状況や全体的な姿を把握し保育に活かしている。毎日の昼礼や月2回の職員会議は非常勤職員も参加し、クラスミーティングには園長または主任が参加している。期毎に行事の取り組みや気になることなど振り返りを行い、子どもの生活を24時間で捉えた保育に向けて話し合っている。さらに子どもの主体性を育む環境整備など遊びの環境を職員間で工夫していく取り組みが期待される。</p> <p>異年齢の関わりや様々な活動を通し、子どもの気持ちを尊重した関わりを大事にしている</p> <p>保育室や戸外など様々な活動を通して、子ども自身が興味関心を持ち、子どもが主体の遊びにつなげていけるように子どもの活動を見守り、必要な玩具や素材、環境構成ができるように園は考えている。散歩に出かける乳児に年上児が靴下を履かせたり、また自分でやりたい子には気持ちを汲んで見守る様子が見られる。異年齢の関わりの中で保育士はそれぞれの思いに付き合いながら、子どもの気持ちを大事にした丁寧な関わりがなされている。3・5歳児は「かぜ・だいち組」として共に生活し、ふれあう中で互いに育ち合う機会となっている。</p> <p>発達の過程で生じるトラブルは遊びの環境を見直し、年齢・発達に応じた対応をしている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、園生活の中で互いに成長する機会として援助できるよう考えている。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルについて、保護者会で園の考え方を伝え、子どもの気持ちを尊重した関わり、保育環境の見直しや言葉かけを工夫している。保育士が仲立ちとなってそれぞれの思いを汲みながら一緒に考えるなど、子どもの年齢やその子に応じた対応に努めている。就学に向けて幼保小連携ブロック会議や小学校と連携した給食体験、ランドセルを背負うなど学校体験に参加し、不安なく就学につなげる取り組みをしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>受け入れ時に子どもの様子を丁寧に聞き、申し送り表に記載し職員間で連携している</p> <p>登園時に玄関で、健康面や子どもの様子について保護者から聞き取り、健康観察を行い申し送り表に記載している。全園児体温を測り、その日の様子を保護者に口頭で確認して受け入れをしている。子どもの様子を早朝保育担当職員から各担任に引継ぎ、職員間で共有し日中の保育につなげている。保護者から受けた伝達や質問事項など、連絡帳や口頭で対応している。食事やおやつの喫食状況、睡眠時間、健康状態などの子どもの様子は申し送り表で引継ぎ、園長や栄養士もサポートに入り、お迎え時に玄関で対応しその日のエピソードを口頭で伝え共有している。</p> <p>保護者と連携を図りながら、日々の積み重ねの中で生活習慣の自立に向けている</p> <p>子ども一人ひとりの成長の積み重ねを大切にしながら、基本的な生活習慣の自立に向けた個別指導計画を作成している。子どもの成長発達に合わせて、身の回りの簡単なことをしようとする気持ちが芽生えた頃に食事・排せつ・着脱など、保護者の意向を確認しながら無理のないように進めている。朝ごはんを食べない、夜中に目覚めてしまう、子どもがスマートフォンに触れ遊ぶなど保護者の子育ての悩みを受け止めて、1月の保育参加の機会にパンフレットを配付している。基本的な生活習慣の大切さを伝えて、保護者と共に子どもの自立に向けている。</p> <p>子どもの生活状況に配慮し、安心して休息・睡眠ができる環境を整えている</p> <p>その日の体調や子どもの状況に応じて一定の時間安心して睡眠が取れるように環境を整えている。個々のリズムに合わせて、個別な対応ができるように環境を整えている。乳児は午前寝をしたり、早めに目覚めた子どもは時間帯によって再度眠れるよう対応している。また、目覚めた子どもが静かに遊べる環境もあり、5歳児は就学に向けて徐々に午睡を減らし、1月から午睡をせずに別室で好きな遊びができる体制を整えている。睡眠チェック表に0歳児5分毎、1・2歳児10分毎、3歳児15分毎に顔色、呼吸、体勢を確認し記録している。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが遊ぶ玩具を選び、遊びが豊かになるよう環境構成の工夫が期待される</p> <p>木の風合いを生かした明るい保育室は子どもの発達に合わせた玩具や環境設定で、子どもが主体で遊びを広げられるように職員間で確認され、園の課題になっている。玩具は箱に入れて玩具棚に収めてあり、子どもの視線からは見えにくく、乳児は自分で玩具を箱から取り出すことも難しい。探索活動が盛んな時期に興味を持って引っ張る転がすなど好きな玩具で繰り返し遊び、幼児は友だちとイメージを共有しごっこ遊びに発展するなど、発達に合わせた遊びの環境を職員間で意見を出し合い、園の大事にしている「子ども主体の」遊びの環境構成が期待される。</p> <p>様々な体験の中で、子ども一人ひとりの思いを大切にしながら興味や関心を広げている</p> <p>いろいろな素材に触れた製作活動や幼児クラスのリトミック遊びなど表現活動や集団活動の中で、保育士や友だちとの関わりから他者の思いに気づき、また自分の思いを伝えるなど、保育士の援助で子ども同士の関わりを深めて行けるように配慮している。保育士が子どもの話をよく聞き共感することで子ども自身も話したくなり、やり取りを楽しめるようにしている。日々の活動の中で自分からやってみたい気持ちを持てるように保育士が援助し、楽しい体験を積み重ねている。利用者調査の中で子どもの気持ちを大切にしたい対応の設問に100%の評価を得ている。</p> <p>目的によって行き先を選択し、戸外活動では季節に応じた体験ができるようにしている</p> <p>園周囲の公園に出かけ、池の鯉やカメ、ドングリなどの木の実や落ち葉拾いなど、四季折々の自然に触れる機会を大事にしている。園の廊下には散歩マップが掲示しており、園周囲の公園で子どもたちがどのように過ごしているかを保護者に伝えている。季節の変化を感じたり固定遊具での遊びなど、年齢や天候、目的に合わせて行き先を選択して散歩に出かけている。生活や遊びを通してルールや自分の思いが通らなかつたり、主張が通らなくても相手の思いに気づくなど、子ども自身が自分の気持ちを調整する力を獲得できるように保育士が仲立ちし援助している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日々の遊びの延長で行事に取り組み、子どもたちが無理なく楽しめるようにしている</p> <p>子どもの園生活が豊かなものになるように、日常の生活の延長として行事に取り組んでいる。子どもの日の集い、夏祭りあそび、お正月遊び、節分など季節の行事や親子ふれあい遊びの会、クリスマス発表会など保護者と一緒に楽しむ行事は成長の姿を見てもらう機会になっている。毎月の誕生会は保育士が交代で担当し、誕生児を中心に楽しめるようにしている。地域との交流を深めるハロウィンパレードなど年齢に合った取り組み方で、日常の保育の中で楽しんでいる遊びを取り入れ、子どもが興味や関心を持って取り組めるようにしている。</p> <p>日常の遊びの中から子どもが興味を持って取り組めるようにしている</p> <p>開園初年度であるが子どもの成長の様子を共有する機会として、保護者参加の行事を実施している。慣れた場所でできるメリットを活かし、幼児の保育室を開放した「親子ふれあい遊び」は1部は0・1歳児、2部は2～5歳児と分けて行い、子どもの発達を促した運動遊びや親子競技などを楽しんでいる。行事アンケートでは「成長を感じられた」などの感想や今後の実施に向けた意見が寄せられ課題となっている。クリスマス発表会の劇遊びでは子どもたちの意見を取り入れ、年下児が真似て楽しむ姿も見られている。保育の中で充分楽しんで発表会に向けている。</p> <p>行事後のアンケートの意見や感想を受け止めて次の行事に活かせるようにしている</p> <p>保護者参加の行事毎に、開催時期・時間・会場・プログラム・次年度に向けた意見・要望など、保護者からの意見を集約しまとめたものを掲示している。検討が必要なことは職員間で共有し、次年度に向けて検討していくとしている。今年度、事前に公開リハーサルとして、当日参加できない保護者や祖父母に参観する機会を作って子どもたちの意欲につなげている。また、意見箱に寄せられた祖父母が参加できる行事の要望に応じて「敬老の集い」を実施し、クラス毎に年齢に合わせた写真のフレーム・ブンブンこま・竹とんぼなどの製作を一緒に楽しんでいる。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>朝夕の時間帯も、子どもが安定して過ごせるよう配慮した環境を作っている</p> <p>朝や夕方方の時間(延長保育)帯も子どもの健やかな成長のために、月指導計画の中で「長時間保育」の欄を設けて保育士の配慮や環境構成を立案している。子どもの人数や保育室の状況に応じて遊びの環境設定を変えて好きな遊びを選んで、異年齢の合同保育の中でも一人ひとりが安定して過ごせるように配慮している。子どもの体調や機嫌など状況を把握して、甘えたい気持ちを受け止めた対応もできるようにしている。日々の延長保育日誌は保育内容・環境設定と配慮・子どもの様子と反省など記録し、保護者からの伝言など確実にクラスに伝わるようにしている。</p> <p>異年齢の関わりの中で丁寧に子どもを見守り、楽しめるようにしている</p> <p>日中の保育でも3・5歳児の異年齢クラスであり、散歩などの活動の中でも0歳児と3歳児と一緒に散歩に行くなど、クラス間で交流している。子どもたちは日常の園生活の中で年下児への関わり方、また年上児への憧れや真似をするなど、遊びの中でも異年齢での関わりを保育士が見守りながら、互いに成長できるように援助している。朝夕の異年齢保育でも子どもたちは一緒に遊ぶ中で関わりを持ち、保育士が十分に気持ちを受け止めて甘えたり、ゆったりと絵本を読むなど、子どもの気持ちや機嫌、健康状況などに配慮した関わりをしている。</p> <p>日々の朝夕の遊びの環境や玩具について、さらなる工夫に取り組んでいる</p> <p>今回の利用者アンケートの中でも、保護者から朝夕の遊びが決まったものだったが最近変わってきたと意見が寄せられている。園長を中心に、これまで子どもの興味を促した環境構成について検討してきた。ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で異年齢で過ごすための環境構成や、年齢に合わせた遊びや幼児の机上遊びが落ち着いてできる場所など、子どもの様子を促した環境作りを検討している。保育時間が長くなる中でも、楽しく安定して遊ぶ保育室の環境構成を課題として今後も取り組んでいきたいと考えている。</p>		

6	<p>評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている
評価項目6の講評	
<p>様々な献立や味覚を体験しながら、食べる意欲につなげている</p> <p>1階の廊下から大きな窓越しに調理の様子が見え、子どもたちにとっても楽しい場所になっている。朝から出汁の香りや湯気が立ちのぼり、食事ができるまでの行程を子どもたちは見ることができる。24節気を活用した食文化を伝え、旬の野菜を中心とした献立になっている。食事の時間は家庭と同じように決まった席で安定した関わりを持ちながら食事をしている。喫食状況は管理栄養士、調理師が巡回し子どもの食事の状況を把握しながら調理方法や献立の工夫をしている。温かいものは温かく提供することで、美味しく食べる体験につながる工夫に期待したい。</p> <p>食物アレルギーや離乳食など、一人ひとりに応じた安全な食事提供に努めている</p> <p>入園時に食物アレルギーがある場合は、アレルギー調査書、医師の診断書(生活管理指導票)検査結果コピーをもとに、保護者と栄養士、担任で面談し、個々の状況などに応じた給食を提供している。食物アレルギーの食事の提供は「食物アレルギーマニュアル」に則り、受け入れ対応の手順、誤食防止の手順に沿って複数の職員でチェックし安全な食事提供に努めている。離乳食も同様に一人ひとりの発達に応じて前期から完了まで保護者と連携しながら進めている。初めての食材は家庭で1回以上食べてから園の給食で提供する仕組みになっている。</p> <p>栽培した野菜を食べたり、食育に取り組み、子どもたちの食への関心を高めている</p> <p>食育年間計画を立て年齢に応じた活動を月に1回行っている。区のガイドラインの食育に「スプーンの使い始めから箸への移行前まで」とあり、園でも3歳児は移行期で箸、スプーン、フォークが用意され個々に合わせて進めている。毎月のクッキングは0・1歳児もそら豆に触れる、キノコをちぎるなど食材に触れることから始まり、2～5歳児はプチトマト、小松菜、オクラなどの夏野菜の栽培や、青果店に買い物に行く他、日本の食文化に触れるクッキング体験など、食育の様子は写真掲示で保護者に伝えている。給食だよりでおすすめメニュー紹介もしている。</p>	
7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている
評価項目7の講評	
<p>けがや病気の予防に関心が持てるように、日常の保育の中で具体的に伝えている</p> <p>年間保健計画では健康教育の他、保健活動、家庭との関わり、職員との連携など月毎に立案されている。健康教育では子ども自身がけがや感染症の予防ができるよう、安全指導や手洗い・うがい、鼻水や咳の対処法も伝えている。日々の戸外活動においても、散歩ルートや危険個所の見直しを行い、年齢発達に合った目的地選び、年齢に合わせて遊ぶ前に約束や注意事項を伝え、安全に遊べるようにしている。健康診断や歯磨き指導を通して、子どもが自分の体に興味を持って、健康や安全に関心が持てるように日常生活の中で伝えている。</p> <p>日々の健康状態を把握し、職員間で連携して子ども一人ひとりの健康管理を行っている</p> <p>登園時に保育者が子どもの健康観察を行い、家庭での体調に変化がないか保護者から聞き取り、申し送り表に記載して職員間で共有し日中の保育につなげている。日中は看護師による健康観察は一日に4回行い、発熱など子どもの体調に変化があった場合、保護者に一報を入れて急なお迎えにならないよう配慮し、個別に対応できる体制を取っている。医療的ケアが必要な場合、医療機関や関係機関と連携し適切なケアができるようにしている。園内研修では衛生管理、嘔吐処理、ヒヤリハットの事例検討などに取り組み、事故防止や感染予防に努めている。</p> <p>保健だよりや掲示で、感染症や健康維持に対する意識の共有に努めている</p> <p>入園時に予防接種や感染症、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する情報や園での睡眠時のチェック方法を保護者に説明している。0歳児5分、1・2歳児10分、3歳児以上は15分毎にプレスチェックを徹底し、安全な睡眠の確保に努めている。家庭でも仰向けで寝る習慣が身につくようパンフレットを配付し周知している。毎月発行される保健だよりでは防災週間・予防接種を受けよう・感染性胃腸炎の話など季節に応じた内容や、子どもの健康な生活に関する情報提供を行っている。感染症の発生時には掲示にて保護者に注意喚起を行っている。</p>	

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者の個別な状況を受け止めながら配慮し、柔軟な対応に努めている 保護者の就労状況など個々の状況を考慮し、延長保育など柔軟に対応している。また、子どもの健康面でも保護者の勤務状況を配慮し急なお迎えにならないように、体調がすぐれない時には早めに一報を入れて、子どもの様子を見るなどの対応をしている。個々の家庭の状況を十分に理解した上で個別な対応ができるように、職員間で意識共有を図っている。連絡帳や送迎時に口頭で個別の子どもの様子を毎日伝えてもらい安心できるという声と、言い方や伝達内容の要望が利用者調査の中で散見されるため、保護者に寄り添った対応について検討が期待される。</p> <p>保護者の交流の機会として、懇談会や行事への参加の機会を設けている 多くの保護者が参加できるように土曜日に保護者参加型の行事を計画し、保護者同士の交流の機会としている。親子触れ合い遊びの会では、同じ年齢の子どもを持つ保護者同士が子どもと一緒にダンスや遊びを一緒に楽しみながら、子どもの成長の喜びを共有している。保育参加や給食試食会などを通して、園での子ども同士の関わりや、保育士の援助方法を通して子どもへの理解を深める機会になっている。保護者同士の交流の機会についてはさらに職員間の意見交換を深めて、保護者が安心して子育てをするための支援の充実につなげて欲しい。</p> <p>園の活動への理解を深めて、子どもの育ちについて共通理解を深める取り組みをしている 毎月のクラスだよりで前月の子どもの様子や、今月の取り組む保育内容を各クラスとも伝えている。また、看護師や栄養士は保健だよりや給食だよりを通して、子どもの健康な生活に関する情報を発信している。子どもの個別な相談についても、園での様子を伝えながら、家庭でできることを専門的立場から相談にのり、子育て支援に努めている。保護者の意見や提案を聞く機会として行事後のアンケートの実施や意見箱などで、園の保育活動への理解を深めて意見を受け止め、課題や提案を職員間で検討し、園の運営に反映できるようにしている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>子どもたちの多様な体験の場となるよう、地域との交流の機会を計画している 戸外遊びを積極的に取り入れ、年齢や目的に合わせて近隣の公園で遊び、自然に触れる体験や固定遊具で遊ぶ、広い場所で遊ぶなど公園ならではの体験の機会を広げている。また、近隣や地域の方々と挨拶を交わし保育園を知ってもらい、園行事のハロウィンでは近隣商店の協力を得ている。また、畑を利用した栽培活動ができるように交渉中で、今後の保育活動の中で実施に向けていくことを考えている。1月にはボランティアによる「科学遊び」の体験をしており、子どもたちの様子は写真で掲示して保護者に伝えている。</p> <p>園の専門性を活かした活動で、子育て家庭の支援につなげている 地域の子育て家庭を対象とする「ふれあいひろば」を主任と看護師を中心に6月から毎月計画し、身体計測と健康に関する看護師の話の他、園での遊びを企画している。絵本・わらべうた、マット遊び、感触遊び、ポールプールなど毎月遊びの体験と園庭開放、0歳児クラスの子どもたちと一緒に遊ぶなど実施している。育児相談など園見学に来園した保護者にも周知し呼びかけている。子どもたちの園生活の様子から、入園希望の保護者にとっても安心できるようにしている。中学校の職場体験は子どもたちにとっても職員以外の人と交流できる機会になっている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル①	地域の子育てニーズや意見などを反映し、保育に取り組み、子育て支援を展開している	
内容①	運営委員会を通じて地域の子育てニーズを把握したり、保護者アンケートを活かして行事や災害、食育などへの意見や要望などを集め、保育活動を実践している。敬老の集いやハロウインの取り組み、公開リハーサルの開催など、保護者や職員の提案などを具体的な活動として展開している。園庭開放から保育活動の体験、在園児との遊びを通しての交流などの「ふれあいひろば」を行い、地域の子育て支援につなげている。保育主任や看護師などが担当となり、専門性を活かした子育て相談などにも対応しており、地域の子育て拠点としての役割を担っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	それぞれの家庭の状況を受け止めて、柔軟な対応で保護者の子育て支援に努めている	
内容②	子どもが園生活の中で安定して過ごせるように、子どもの体調をきめ細やかに把握し看護師と連携し保育を進めている。それでも、急な体調の変化があった時に、保護者の事情によって急な対応が難しいので、早めに一報を入れて子どもの様子を知らせている。保護者に寄り添った対応を心がけ、子育ての相談には担任だけでなく園長や栄養士、看護師が連携し相談に対応できるようにしている。日々の保育士との安心できる環境の中で、子ども一人ひとりへの丁寧な保育で、保護者が安心して子どもを園に預ける信頼関係につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	園内マニュアルや遅番早番チェックシート等を用いて業務水準の標準化に取り組んでいる	
内容③	園内マニュアルは年度末に職員全員で見直しを行っている。延長保育マニュアル、安全チェックシート、早番遅番の手順書、毎週金曜日に安全点検を行う等業務の標準化に前向きに取り組んでいる。延長保育について園長が日誌と合わせ、とりまとめを行い全体を把握している。マニュアルは職員が閲覧しやすいところに保管し、業務の振り返りに役立っている。散歩チェック表は19の項目にわたり緊急対応や安全面も含め業務に役立っている。分かりにくい内容についてチェックシートを導入し基本事項や手順を明確化して、多面的に検討し見直しがなされている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園長を中心に専門性を活かして園運営が進められ、保育理念・方針を共有し子どもたちを大切にしたい保育活動が実践されている
	内容	園長を中心にして保育主任や看護師、栄養士などの専門性を活かした園運営が進められている。園では選ばれる保育園を目指して保育の質の向上、職員のスキルアップ、子ども一人ひとりの気持ちや意見等を大切に、関心を持つことに重きを置いて、自主性・主体性を育む保育実践の展開につながるよう取り組んでいる。職員間では保育理念を共有し、みんなで相談して運営に関わり、子どもたちが大切にされていると実感できるよう丁寧な保育を心がけている。開園1年目の保育園であるが、利用者調査結果は回収率も高く、100%の満足度を得ている。
2	タイトル	様々な機会に保護者からの要望や意見を受け止めて、保育の見直しや改善に向けた取り組みに活かし、その都度保護者に発信し伝えている
	内容	園の玄関に設置された「ご意見箱」や行事後のアンケートなど、保護者の要望や意見を聞く機会を捉えて、質問や要望、提案された意見はその都度、項目別に集約し直ぐに回答できること、検討するもの、次年度に活かせることなどを分析し、アンケートをまとめて掲示して保護者に発信している。開園一年目である今年度「ご意見箱」に祖父母が参加できる行事の要望があり「敬老の日の集い」につなげている。また、保育参加（給食試食会）では園の保育活動を知ってもらい、保護者の意向や意見など柔軟に受け止めて園運営に活かす姿勢を持って取り組んでいる。
3	タイトル	子どもたちが興味のあるものをテーマにして保育を展開し、食への関心や好奇心を促すなどの活動を行い、保護者と様子などを共有している
	内容	子どもたちが興味のあるものをテーマに保育の活動を展開しており、意思や意見などを大切に子どもが自分から取り組んでいく支援を行っている。キノコが苦手な子どもがいればキノコ栽培を園内で取り入れ栽培活動を通して食への関心につなげたり、科学教室のボランティアを招いて実験を取り入れた活動を行うなど、子どもが好奇心を持って近づける保育を実践している。子どもたちの保育活動の様子などは写真や職員のコメントなどを通じて保護者に伝え、子どもたちが大切にされている実感や自由に遊び表現していることを共有できるよう配慮している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育室の安全性が配慮され清潔で優しい色合いの環境を活かした、子どもたちの主体的な活動につながる環境構成の充実が期待される
	内容	廊下のニッチや子どもの視線から外が見える階段踊り場の低い窓など、工夫を活かすと楽しい環境につながる。各保育室とも玩具棚に玩具をボックスに入れて収納し、乳児の視線から玩具は見えず、保育士が玩具を選んで設定している。園の保育方針「乳幼児期に適した環境を整えて主体性を育む保育を目指す」ために、子どもの年齢発達の特徴を捉えた環境整備について、日常の保育の中での気づきを共有し、職員間での検討を通して実践に向けて欲しい。発達や興味に合わせた玩具の選択と、子どもが自分で選んで遊び込める空間の充実が期待される。
2	タイトル	遊びを豊かにする環境構成のために必要な教材や玩具、コーナー設定に必要な備品など、園の環境を見直して職員間の意識共有を進められたい
	内容	園では子どもが自主的に主体性を持って遊びを広げていけるように保育環境の取り組みを進めたいと考えている。「子どもの自主性・主体性を大切にしたい」環境構成について、丁寧に職員間で意見交換し課題を明確にし、どのように計画し進めて行くかを検討して欲しい。子どもの発達・成長につながる遊びの広がり話し合い、必要となる玩具や遊びに関する支援の仕方、遊びのバリエーションなどの検討に活かされたい。子どもの発達を把握し成長の方向性を見据え、どういう保育をしたいのかを共通認識として制約のある中でもできる工夫や配慮を進められたい。
3	タイトル	保育のスキルアップを目指し様々な研修機会が提供されており、研修成果を活かした内部研修への展開や保育への効果的な活用も検討されたい
	内容	職員の保育スキルの向上に向け、様々な研修機会が提供されており、希望する研修には業務シフトを工夫して参加できるよう配慮がなされている。研修参加後には報告書が作成され、事務室に保管されており誰でも閲覧ができるようになっている。研修成果を活かした内部研修への展開や、研修の成果が保育活動のどの部分に活かされたか、子どもや保護者の対応にどのように活かされたかを職員間で共有されたい。また、保育への取り組みでどのように具体的に活用し実践していくか、より効果的に保育に活用するためにはどう工夫するのかなども検討されたい。